

# 県内版

【一大事】大切な自転車が壊れてしまった。病院に連れて行って、直してもらわなきゃ！

【化学変化】(ジザ用)チースがとけるのを見て、チースがマヨネーズに変わった！

この「こたし」が、カブトムシとクワガタムシをとってきね！(山はジャングルのことよ) まだ・まさみ(6歳)

豊田市、母・日野裕子 出張で、タイとシンガポールに行ってくるよ、日進市、母・島田聡美

## 未来の 主役へ

ハイスピードでコーナーに突っ込む型破りな走り、「尾張の荒武者」と呼ばれていました。でも、周囲で言われるほど、自分ではそんなに速いとか、すごい人間だと思ったことはない。肩ひじ張らず、普通のことを普通にやっただけだと思っています。

小さいときから乗り物には器用で、兄の大きな自転車も「三角乗り」してました。機械いじりも好きでした。負けず嫌いで、友達と自転車に乗っても、魚釣りをしても、いつしか競争でした。

近くの川で毎日のように泳ぎ、木登りも好きだった。よく遊びました。父母は何をしていても口うるさく言わなかった。ただ「近所の人には必ずあいさつしろ」とだけ。だから、むちゃをすると近所のおじさん、おばさんによくしか

元国際A級ライダー 水谷 勝さん(56)



# 転んでももまた走り出せ

みずたに・まさる 1949年、津島市 鹿伏鬼町生まれ。76年、全日本筑波大会ジュニア2500ロードレース初出場。初優勝。同年のクラスチャンピオン。81年にスズキ契約ライダーとなり、82年に7連勝でわが人生」が座右。同市鹿伏鬼町在住。

当時は父と兄がやっていた建築業を手伝いながら、手弁でレースを続けていました。が、一九七八年に父が亡くなり、家業も倒産。収入源が断たれ、アルバイトと賞金で食いつなぎながらの参戦でした。仲間のカンパがありがたかった。せっぱ詰まった境で奮起したのも良かったのでしょう。八二年、全日本選手

現在、プライベートで「鈴鹿8時間耐久レース」に毎年出場しています。障害のある人にもバイクのすばらしさを感じてもらうため、ライダー仲間と一緒に「風の会」を結成。毎年8耐で障害者を後ろに乗せて走る活動を続けています。五官を使うバイクはハリハリにもいいのです。

これからはもっと、高校生たちにバイクの乗り方や魅力を教えていきたい。バイクは安全に走らないと相手も自分も大けがをする乗り物。だから、人に優しくなれると思う

権五〇〇ccクラス七戦七勝で優勝することができました。

前年はけがをするなどさんざん。オフシーズンに木曾川堤防を走るなど初めて体カトレーニングをし、心身を鍛え直した。契約ライダーは速く走って勝つのが普通。ミスがあるならミスがないように走るのが普通です。その普通を突らせるために努力する。大や学や高校受験もそう。受かりたかったら勉強するのが普通ですよ。

六十歳で英国の伝統レース「マン島TT」に出場するのが夢。その先も行けるとこまで行こうと思っています。ライダー仲間や同世代の人たち、そして若者が「水谷がやれるなら、自分もまだやれる」って思ってくれたらうれしいですね。(逢沢 哲明)